

令和3年度 ユマニテク医療福祉大学校学校関係者評価委員会議事録

日時 2022年2月24日(木) 15時~16時30分

場所 Zoom形式(配信場所 ユマニテク医療福祉大学校 基礎医学実習室)

出席者

【学校関係者評価委員】

関係団体 三重県社会福祉協議会 事務局次長 明石 典男 様

関係団体 三重大学教養教育院/医学部医学・看護学教育センター(兼)教授 太城 康良 様

関係企業・卒業生 三重厚生連三重北医療センター 作業療法室 伊藤 正敏 様

関係企業・卒業生 医療法人 尚徳会 ヨナハ介護老人保健施設 杉浦 公紀 様

卒業生 歯科衛生学科同窓会長 中道 祐子 様

地域住民 塩浜地区連合自治会 塩浜本町2丁目自治会長 谷崎 知文 様

高等学校 大橋学園高等学校校長 藤田 泰樹 様

【学校側】

校長代理 小出 益徳

理学療法学科長 田中 宏明 作業療法学科長 山崎 治行

歯科衛生学科長 北川 順子 介護福祉学科長 伊藤 幾代

事務長 東松 恵子 事務職員(書記) 水谷 美加

欠席者

校長 大橋 正行

1 挨拶

2 出席者自己紹介

3 委員長の選出

事務局からの提案により太城委員を委員長に選出した。

4 学校概要説明

校長代理より資料に基づいて学校概要の説明をした。

5 学校自己評価結果について

・学校自己評価結果の(1)教育理念・目標(2)学校運営(7)学生の受け入れ・募集(8)財務(9)法令等の遵守(10)社会貢献・地域貢献について資料に基づき校長代理より説明を行った。

・(3)教育活動(4)学習成果(5)学生支援(6)教育環境について各学科長より追加説明した。

理学療法学科:令和4年度から3年制課程に変更となるため、新たなカリキュラムマップを作成した。授業はかなり密になるが1年生は若干空きコマがあるためその時間を活用して補足していく。

再試験については、学年末に特別試験を導入した。

卒業後のキャリア形成として卒後教育セミナーを実施している。今年度は計8回165名の卒業生が参加。

次年度以降は3年制課程への変更で業務負担が増えるため、別の形で動画配信を考えていく。

3年制になるにあたり1年生から国試への意識強化のため、自学自習アプリを使用していく。

カウンセリングの機会が増えているが予約が取りにくい状況なので次年度以降さらに充実させていく

い。4ヵ年計画で設備の入れ替え、新規導入をしてきた。来年度ですべて完了する予定である（田中学科長）。

作業療法学科：今年度で3年制課程が完了年度を迎えた中で改善点がいくつか出てきたので今後改善できるように検討していく。国家試験に関しては1年生の段階から国家試験の問題に慣れるよう授業中の小テストや本試験の中に国家試験の過去問を導入している。

理学療法学科同様、特別試験を導入した。それにより特別試験を落とした学生がいるので、来年度以降特別試験にあわせた学習指導方法を考えている。

月2回のカウンセリングを活用しているのに併せて学科一同、学生への個別対応を充実させ進級にむけてサポートしている。2022年度にあわせて備品の整備を進めてきた（山崎学科長）。

歯科衛生学科：現在令和元年度に改訂したカリキュラムを進めているが次年度はコアカリキュラム、編成委員会の意見を参考にカリキュラムを変更する予定である。

コロナ陽性者が出たり、実習施設が停止した場所もあったが、学内実習も含め先週全実習が終了した。国家試験合格率9年連続100%合格率を維持してきているが、今年度は100%を維持するのが難しい。地域公開講座は卒業生、地域の衛生士に向けて実施している。今年度は歯科医師も含めて70人が参加しオンラインにて無事に終了した。

就職状況は三重県歯科医師会の協力のもと円滑に行われている。県外においても仲介業者、県外の養成所との連携を行って順調に決まっている。

モニター等の整備、LED化などで学ぶ環境は整っているが歯科業界のデジタル化に追いついていないのが今後の課題である（北川学科長）。

介護福祉学科：今年度は新しいカリキュラム1年目。地域保健、介護予防、チームマネジメント力、認知症の理解を深めるといった部分に重点をおいた変更をしている。

留学生が増えている為、教材の工夫にも力をいれている。教員、講師の資料にはルビ、挿絵、写真を入れわかりやすくしてもらっている。三重県下の養成校5校で共通の実習ノート、手引を使用しているが留学生にわかりやすい実習ノートに変更をした。来年度から使用していく予定である。

就職率は100%だが資格取得に関しては留学生にはハードルが高い。個々の学力を上げることはできたが合格ラインには届くことがむずかしい。日本語のレベル 模擬試験からの分析などをこまめに行い、1年生からの国家試験への意識付けを強化していく。

施設奨学金、介護福祉士就学資金を利用している学生がいる。就職が決まっている学生も卒業前に施設に面接をお願いしてあらためて内定をもらっている。就学支援金は5年間の就学が条件になるので5年間しっかりサポートしていきたい。

志摩や鳥羽など遠方の学生も増えてきたので学生の確保をするという意味でも施設の拡充を検討していく（伊藤幾学科長）。

・(6) 教育環境、(7) 学生の受け入れ・募集、(8) 法令等の遵守について事務長より追加説明した。教育環境について各学科の必要備品に関しては計画的に進めてもらっているが校舎全体の整備についてはばらつきがあるため順次進めていく。

今年度は高等学校の医療コースの設置による整備を進めてきたので次年度はそれ以外の部分の整備を重点的に進めていく。

学生募集に関してはパンフレット、HP、SNS などを利用して情報発信を進めてきたが、コロナ禍でガイダンスの中止や高校訪問が難しい状況が続いた為、そうした状況を補うために、今後は動画の作成や SNS による情報発信をより充実させていく。

学生支援においては経済的に厳しい学生が増えてきている中で奨学金や修学支援金などの情報をその都度提供している状況だが今後は事前に学生全体に周知が行き届く様方法を検討していきたい。

定員数不足に関しては修学支援金の対象校として継続していけるかの条件のひとつでもあるので充足に向け力を入れていきたい（東松事務長）。

6 学校関係者評価委員による評価

谷崎) 社会貢献の部分において以前は地元で開催されるイベント等に学生も参加してくれていた記憶があるが現況は教員のみ貢献という認識でいいか、学生が地域の人と交わる機会の有無の確認をしたい。

小出) 現状は教員による貢献のみとなる。以前は介護福祉学科、作業療法学科が地域の文化祭などに参加していたがコロナ禍で参加が出来ない状況が続いている。今後状況が改善されれば積極的に参加していきたい。

太城) 参考例として三重大学医学部の地域貢献の例をお話いただく。コロナ前は地域の方に向けセミナーや医学系の講義を実施していた。コロナ禍になってからは体力不足の改善などの情報提供等で間接的な交流を図っている。

小出) 参考にしていきたい。

伊藤正) 在学中ケーブルテレビにて医療のワンポイントレッスンなどをさせてもらい良い思い出になっている。予算はかかるがそうした形で家でもできる体操や各学科の目線での情報提供を発信していくのはどうか。地域の方の健康への貢献については広報としての役割も担えるのでぜひ実施してほしい。

また 3 年制になる学部が多い中、早いスパンで資格が取れるメリットもあるが社会人枠の確保についてどう考えているか。

小出) 地域住民の健康への貢献については谷崎様と相談させていただいて考えさせていきたい。社会人枠の確保は社会人枠の奨学金の設置などの検討をしている。その他には卒業生の家族に対する奨学金枠、地域枠の検討をしている。また以前より大卒短大卒の入学者に対して単位の減免、授業料の減免などを実施しているので更に周知されるよう務めていきたい。

杉浦) 卒業後主体的に自己研鑽できる学生を育ててほしい。そのために介護福祉士会の入会説明会などの機会を利用し、外部の人間からの経験談を通して重要性を伝えてもらうことも大事ではないか。

小出) 参考にしていきたい。

7 意見交換

明石) 自己評価の評価結果をきいて非常に努力されているなど感じた。

伊藤正) コロナ禍の中で十分な実技の練習ができないまま卒業して患者に携わる学生が増えている中、病院側としても教育体制はつくっていくが、学校でも卒後に向けての指導をしていただけるとありがたい。オンラインセミナーは参加してとても勉強になったので今後もぜひ続けてほしい。同窓会としても協力していきたい。

杉浦) コロナ禍において学生も非常勤講師も安心して学べる環境づくりのひとつとしてオンライン授業の整備を引き続き努力していただきたい。

中道) 自分が学んでいたときより環境整備が進んでいて素晴らしいなと思った。歯科業界のデジタル化が進んでいるのでそこに向けて学べる環境も整ってほしい。地域公開講座は同窓会としてもありがたい。今

後オンライン研修がさらに増えて行ってほしい。

谷崎) 地域の代表として。塩浜駅を利用する学生のマナーの悪さ等目立つときがある。学校側の努力も理解しているのでそうした部分を自治会にもアピールしていきたい。

藤田) 来年度から高校の医療コースを設置する理由として作業療法や理学療法などの職業が中学生に認知されていない現状がある。人材が不足している業界なのでそこを高校側から開拓することにより人材確保に協力していきたい。

太城) 全体的に見てカリキュラムの変更など問題点に適切に対応しているのがよかった。

改善点としては、デジタル化が学習効果につながっていく。オンライン授業をサポートする資料提供をスムーズに行うシステムづくりを進めて行ってほしいがそのためには技術系の職員がいることが望ましい。ソフト面としては、先ほどマナーが悪い学生の話があがったが、成績不良者と素行が悪い学生は重なる場合が多い。学生には中学高校の延長上にいるのではなく職業人になる手前にいるという自覚を持ってもらう必要がある。勉強が苦手、頑張っても成績が伸びないという状況の中、自分自身が取れないと決めつけていたら取れないままで終わってしまう。

その為にオンライン講座の際に知識の伝授だけでなくブレイクアウトの時間を設け、経験者のロールモデルを聞けるようにしてはどうか。よりフラットな関係で相談できることで意識転換に繋がっていくこともあるのではないかと思う。

8 その他・連絡

特になし